



Title	急性膵炎における腎障害の研究
Author(s)	澤田, 良二
Citation	大阪大学, 1970, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/30327
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

[13]

氏名・(本籍)	澤 田 良 二
学位の種類	医学博士
学位記番号	第 2042 号
学位授与の日付	昭和45年4月1日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	急性膵炎における腎障害の研究
論文審査委員	(主査) 教授 西川 光夫 (副査) 教授 阿部 裕 教授 宮地 徹

論 文 内 容 の 要 旨

[目 的]

急性膵炎では膵自体に著明な病変をきたすとともに肝、腎、心臓などの諸臓器にも障害がおよび、これが経過予後に大きく影響する。このうち腎障害についてはかなりの報告があるが、その成績は必ずしも一致せず、その頻度についても大きいひらきがある。そしてこれらの報告はいづれも症例数は多くなく、膵炎を軽重によって区分して精細にみたものではない。そこで著者は多数の臨床例を症状の軽重によって区分して腎障害をしらべた。さらにその病態を精細に把み、臨床的意義を知る目的で、犬を用いて軽重種々の程度の膵炎をつくり、長期にわたって経過を追って、膵と腎の障害をしらべた。

[方法ならびに成績]

1. 臨床的研究

急性膵炎 435例を重症、中等症、軽症に区分して腎障害の程度をしらべた。尿蛋白陽性率は全体では25.1%であるが、重症では65.2%と高く、中等症では33.3%、軽症では21.0%であった。尿沈渣所見では赤血球出現率は71.3%、白血球は全例に出現し、円柱出現率は31.7%であった。

BUN測定をおこなった58例では、重症8例中4例が70mg/dℓ以上、他の4例も40~50mg/dℓと増加、中等症15例では2例(13.3%)が50mg/dℓ程度の増加を示し、4例はわずかに正常域をこえているが、9例(60.0%)は増加せず。軽症35例では増加するものは1例もなかった。また蛋白尿は発病後7~21日、多くは10日前後、BUNは発病後6~14日、多くは7日前後で正常に復する。

2. 実験的研究

犬の大膵管よりオリーブ油を注入して膵炎をおこしたが、その際注入するオリーブ油量を加減することにより、これを超重症、重症、中等症、軽症の4群に区分し、術後6時間、24時間、3日、7日、14日、21日、30日、60日に血清アミラーゼ〔以下血ジ〕、清カタラーゼ〔以下血カ〕、血糖、残余窒素〔以

下NPN)、尿所見をしらべるとともに、それぞれの時期に剖検して脾および腎を病理組織学的に検査した。

超重症群では術後6時間の早期にすでに血ジ、血カは増加し、血糖が下降するとともにNPNも著明に増加し、尿蛋白強陽性で肉眼的血尿を認め、脾はもとより腎にもすでにつよい変化を認め、すべて術後24時間以内に死亡する。重症群では術後6時間では血ジ、血カの増加、血糖の下降、および脾病変はすでに著明であるが、腎障害は未だ軽く、術後24時間に至ってNPNの増加および尿所見は著明となり、腎は糸球体につよい鬱血、尿細管では上皮の剝離、核の濃縮や消失、空胞変性などつよい変化を認める。術後3日では脾の変化はなおつよく、NPNはかなり回復するが、尿および腎の変化はなお著明である。術後7日にはNPNはすべて正常に復し、尿所見も著明に回復し、尿細管には幼若な再生上皮が認められる。術後14日では血カはなお高く、脾に明らかな変化を残しているが、腎は組織学的にも糸球体はほとんど正常で尿細管上皮は立方状で、さらに進んだ再生を思わせ、尿も軽微な所見を残すのみである。術後21日ではNPN、尿所見、腎変化すべて正常に復している。脾は術後30日に至ると組織学的になお一部にわずかな変化を残す程度に回復し、術後60日にはすべてが正常に復している。

中等症群は重症群と同じ傾向の変化を示すが、その程度は軽く、回復も早い。

〔総括〕

1. 急性脾炎 435例の腎障害は重症ほど高率で、かつ強度である。
2. しかし蛋白尿は発病後10日前後、増加せるBUNはこれにややさきだつて発病後7日前後で正常に回復する。
3. 犬のオリーブ油注入脾炎においては、超重症群では発病後6時間の早期に脾はもちろん腎もつよく障害されるが、重症以下では腎障害はおくれて発病24時間後によく著明となる。しかし発病7日後には著明に回復し、組織学的にも発病後21日には正常に復する。脾はこれにおくれて発病後30～60日で正常に復する。
4. 中等症では重症と同じ傾向の変化を認めるが、その程度は軽く、回復も速やかであり、軽症ではさらに軽く、また早く回復する。
5. 以上の実験的事実は臨床的知見によく一致し、急性脾炎における腎障害は一過性であり、その予後は比較的良好である。

論文の審査結果の要旨

急性脾炎に腎障害を伴うことが多いが、多数の臨床例(435例)について、その実態を明らかにした。さらに実験的にオリーブ油注入脾炎犬を用いて脾炎の重症度と腎の障害を対比してその意義をたしかめた。

腎障害は重症ほど高率で、かつ組織学的にもかなり高度な変化を呈するが、生存例ではその回復はかなり速やかで、一過性のことが多く、その経過は比較的良好であり、臨床的知見とよく一致する。

急性膵炎の腎障害は膵炎の軽重、経過の判断に役立つものであり、また急性膵炎の治療にあたり、腎障害の意義と、その対策の重要性を示したもので、価値ある研究と考えられる。